

2
vol.156

広報 縄文村だより vol.156 (2月号)

Jomon Times



平成31年2月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



野蒜築港跡のこれからを考える。

野蒜築港跡 座談会&見学会 を開催します

明治政府による日本最初の近代港湾「野蒜港」の着工から140年。完成後わずか3年で廃港し「幻の港」となりましたが、野蒜築港跡には明治初期の港湾建設事業に関わる突堤の跡や新鳴瀬川および煉瓦作りの架橋橋台、市街地跡に残る紀功碑や測候所跡、道路の下に整備された下水道跡など、国家プロジェクトとして進められた数々の遺構が残されています。

震災を経て、この貴重な近代土木遺産を地域の「たから」として、どのように活用し、次の世代まで伝えていくのか。改めてその価値と重要性を知り、野蒜・三角(熊本県)とともに明治三大築港の一つ「三国港」(福井県)の取り組みを通して、野蒜築港の今後を考えたいと思います。



3/3(日) 10:00 ~ 14:00

10:00 ~ 12:00
座談会「野蒜築港を活かしたまちづくり」

コーディネーター: 後藤光亀氏(貞山・北上・東名運河研究会)
講師: 知野泰明氏(日本大学工学部准教授)
木村昌弘氏(三国港突堤ファンクラブ会長)

13:00 ~ 14:00 見学会「野蒜築港を歩く」

ナビゲーター: 松川清子氏(野蒜築港ファンクラブ)

- ◆会場 野蒜市民センター・野蒜築港跡
- ◆主催 「未来につなぐ奥松島のたから」再生・活用実行委員会
- ◆共催 野蒜築港ファンクラブ、野蒜塾

野蒜築港跡(宮城県東松島市)

大久保利通の命により、国家事業として明治11年に着工。明治15年に第一期工事が完成するも、明治17年の台風により突堤の一部が流出。その後、工事は再開されず廃港となった。

三角港(熊本県宇城市)

ムルドルの設計により県営事業として明治17年に着工、20年に完成。野蒜・三国は河口港だが、三角は深水湾に建設された。現在は史跡公園「三角西港」として活用されている。

明治三大築港



三国港(福井県坂井市)

地元の豪商6人の発起による民活で始まり、後に内務省の直轄となった。北前船で賑わっていた港を修築したもの。明治11年に着工し、18年に竣工。現在も漁港として現役。



イノシシの牙で作った装飾品(右上2点は重要文化財)

(続く)

坊の縞模様様の体毛を表現した土製品も特徴的にみられ、身近な存在であったことがうかがえます。

また、縄文の遺跡からは、幼獣や若い個体を埋葬した例やイノシシを模した土製品も見つかっています。縄文人が象った動物の中で、イノシシ形土製品は圧倒的に多く、縄文人にとっては特別な動物だったようです。仔イノシシ(ウリ)

宮戸島には縄文人が暮らし始める前から生息していたと考えられます。少なくとも67千年も前から宮戸の縄文人の狩りの対象となっていました。食肉としての利用だけではなく、骨(髄)はスープの出汁、オスの犬歯(牙)は道具やペンタントなどの装飾品にも利用されました。毛や毛皮もイノシシは生活しています。縄文人にとってイノシシは生活していくうえで、重要な野生動物だったことがわかります。

イノシシとブタ。同じイノシシ科の動物ではありますが、どうして日本ではブタではなくイノシシなのでしょう？イノシシと日本人のかかわりの歴史は古く、縄文時代にまで遡ります。一般にイノシシは暖かい地方に多く、シカは寒い地域で多く出土する傾向があります。現在、イノシシは東北地方北半には生息しませんが、縄文時代の遺跡では、青森県の北部を除いて早期から晩期までよく出土しています。今よりも生息域が広がったようです。

日本人とイノシシ(1)

もっと知りたい! 地域おこし協力隊〈第22回〉

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1232



楽しく暮らし 地域の魅力を掘り起す



農業・観光振興

しみず かのる
清水 薫さん(47)

私は埼玉県東松山市から友好都市の東松島市に移住してきました。28年10月に地域おこし隊の隊員になってから2年数カ月。現在も牛網地区の「よつばファーム」でゆきなやサツマイモの出荷など農業に関する業務にあたっています。宮戸地区を軸とした観光振興にも関わらせていただいております。東松島市の農業や観光の魅力を掘り起して、どんどん発信していきたいと思っています。

東日本大震災後、義援金を送るだけでなく、何らかの形で復興に役立ちたいと考え、移住を決意しました。地域おこし協力隊着任後、人手不足分野でもある農業にかかわり、大好きなサツマイモをはじめ、多くのおいしい野菜に出会えました。

私の役割の一つとして、ここに来て感動したことを地元の方々に伝え、「魅力の存在を認識してもらうことだ」と考えています。例えば、この地域で当たり前に見えるゆきななどは、埼玉では見かけない野菜でした。最近関東圏へも出荷されるようになり、宮城の自慢の野菜を埼玉の人にも食べてもらえようと思うと、うれしい気持ちになります。

観光面では、地域おこし協力隊の仲間が考案したツアーの検証やサポートを行っています。東松島市といえばブルーインパルスだけでなく、嵯峨渓やオルレ奥松島コースなど観光名所なども広く認知してもらえようと思っています。ここの生活を楽しく、今後は地域の財産である歴史や自然も活かしながら市をPRし、ご縁のあったよつばファームさんで野菜作りにも励んでいきたいです。